



## 公開授業

『文章表現からものの見方を知る

- パンフレットをもとに推薦文を書こう - 』

「書くこと」に苦手意識をもち、「何を書けばよいかわからない」「書くのが面倒」という生徒が多くいます。しかし、同時に「書く力」の必要性も十分感じている…というのが中学生の現状ではないでしょうか。

「書く」ためには「書くべき内容」と「書くための方法」、そしてそれを支える「意欲」が必要です。それらを引き出せるような教材として、今回、私達の身近にあるパンフレットを選んでみました。パンフレットからどんな情報を読み、評価し、発信できるか、実践を試みます。

## 分科会

言外に示す意味を利用して表現する力を伸長する授業の提案

- 書き言葉の限界を意識した上で効果的に書く -

電子メールは今や誰でも利用するといっても過言ではない、当たり前意思伝達方法ですが、時にはメール文がもとで人間関係がぎくしゃくしてしまうことがあります。これは、意思や心情のやりとりというデリケートな活動を、なるべく短い書き言葉のみの送受信で行おうとすることが主原因といえます。そして、例えば「キャッチコピー」のように、この“書き言葉の限界”をうまく利用し、発信者自体があらかじめ意図する受け取り方を、受け手が自然に行うように工夫された文章が、世の中には多くみられます。

自らが表現する“書き言葉の限界”を見極め、そこから受け手がどのようなイメージを広げていくのかを的確につかんだ上で書くことは、様々な場面において効果的に表現することにつながるのではないかと、そういう思いで取り組んでみました。